



## はじめに： 司書のアカデミックスキルの必要性について

大学での学びは、従来型の教員が「教える」形から、学生が主体的に学ぶアクティブラーニングへ移項する方向が、文部科学省中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」（平成24年8月）\*及び、科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」（平成25年8月）\*\*等において示されている。

能動的学修において、予習、復習を含めた授業外学修、レポート作成、情報収集等は、学生にとって重要なスキルであり、そのスキルを身につける支援をする総合的サービスが、図書館に求められている。本研修は、そのようなアクティブラーニングを支える図書館司書の育成を目的としたSD (Staff Development)と位置づける。

## 本研修の概要

情報リテラシーの定義およびその基準として、国立大学図書館協会教育学修支援検討特別委員会編『高等教育のための情報リテラシー基準』ドラフト2.3 (2014年3月) (以下『情報リテラシー基準』)がある。その体系表の中級レベルの内容は以下のように示されている。本研修では、この基準をもとに、その中級レベルを一応の目安として、学生の支援を行う技術を修得する。

与えられた課題について自らテーマを設定し、先行事例を踏まえた上で自らの意見を含んだレポートの作成、発表ができる。

しかし、この基準は定義と枠組みを示すものであって、大学ごとにその教育方針やミッションと連動し、所属する学生のニーズにあった特色ある取り組みとしなければならない。また、教員との連携において図書館が担う部分を把握し、大学図書館の役割は何かを見極めることが、実践するための重要なポイントとなる。この研修は、知識の習得だけでなく、これからの業務全般において大学の教育支援の意識を持ち、応用力のある人材の育成をめざす。

本研修のカリキュラムでは、まずは①『情報リテラシー基準』で示されている6段階のフェーズの内容を具体的に理解し、次に②学生支援の方法を、自ら計画・実行できること、そして③具体的な情報リテラシー教授法に基づいたプレゼンテーション技術の修得を到達目標とする。

## 対象

共愛学園前橋国際大学図書館職員の方

## 講師・企画

NOP法人大学図書館支援機構 高野真理子

**場所**

共愛学園前橋国際大学図書館

**日時**

2015年3月4日（水） 10:00-12:30, 13:30-15:00

2015年3月5日（木） 13:00-17:00

**カリキュラム（案）**

1 日目 学術情報流通の概要と『情報リテラシー基準』の6つのフェーズを理解する

10:00-11:30 学術情報流通の基礎：フェーズ1～4の解説（1.5h）

学術研究における情報の流通段階毎の書誌的知識を解説します。

- 1.学術論文の見方，参考文献のスタイル
- 2.2次資料・文献データベース上の書誌情報
- 3.総合目録やOPAC上の書誌情報・所在情報
- 4.論文・レポート作成のための整理文献ツール
- 5.まとめ：電子化された情報を含めた今後の動向

11:30-12:30 『情報リテラシー基準』各1～4のフェーズに対応するツールの検討（1h）

フェーズ1～4それぞれについて，共愛学園前橋国際大学図書館ではどのような具体的なツール（参考図書，データベース等）があるかをまとめる作業とディスカッションを行います。

12:30-13:30 （昼休み 1h）

13:30-14:30 学修支援の具体例：ライティング支援講座デモンストレーション（1h）

フェーズ5～6については，まず具体的な事例を示します。

IAALが実際に都内の私立大学で行っているライティング支援講座のデモンストレーションを行いますので，その中から共愛学園前橋国際大学図書館で行う際に応用できる部分を考えていただきます。内容は東北大学附属図書館米澤誠氏作成の教材に基づいています。

14:30-15:00 大学の特色に基づいた学修支援の在り方について（0.5h）

ライティング支援講座を共愛学園前橋国際大学の学生に向けた形にアレンジする作業をしていただきます。具体例の投影資料は提供します。プレゼンテーション原稿としてまとめ，2日目にプレゼンテーション実習として，20分の講義で使用します。

※ 時間内にできない部分は，1日目の課題とします。そのため，2日目の開始時間を午後からにしています。

**2日目 アクティブラーニングおよびプレゼンテーションの技法とその応用****13:00-13:45 アクティブラーニングの技法 (0.75h)**

研修会・講習会を企画する上でのインストラクショナル・デザインの基本的な考え方を解説します。

**13:45-14:30 プレゼンテーションの技法 (0.75h)**

分かりやすい話し方とはどのようなことかを実習を交えて説明します。

**14:30-14:45 (休憩 0.25h)****14:45-15:30 ライティング支援講座プレゼンテーション実習 (0.75h)**

一人20分の講義実習をしていただきます。プレゼンテーション原稿は、1日目の研修の中、あるいは課題として準備したものを 사용합니다。適宜実験的な試みを解説として挿入します。

**15:30-16:30 学修支援の企画 (1h)**

図書館オリエンテーションや、OPAC講習会、データベース活用講座、ライティング支援講座等、学生対象の学修支援の具体的な企画書を作成します。企画として、何を、いつ、どこでといった基本事項以外に、より多くの学生の参加を促すPRの工夫や、教員との連携、他部署との協力体制などについてディスカッションし、企画書としてまとめます。

**16:30-17:00 まとめ (0.5h)**

作成された学修支援の企画を、『情報リテラシー基準』の中級レベルに照合して自己評価し、今後の課題を各自が考える拠り所とします。

**環境**

- 参加者に、PC（インターネット接続、Officeまたはそれと同様な機能のソフト）各1台
- プレゼンテーション実習用のPCおよびプロジェクター（講師はiPadを持参しますのでPC不要）
- （参加者のPCから出力するためのプリンター）

（1日目 11:30-12:30は、できれば図書館資料を使用できる環境での実習）

**参考URL**

- \* 文部科学省中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」(平成24年8月)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm)

- \*\* 科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」(平成25年8月)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/25/08/1338778.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/08/1338778.htm)